

平成28年第9回狭山市定例教育委員会会議録

開催日時 平成28年9月27日(火)
午後2時40分から午後4時15分まで

開催場所 市役所 5階 教育委員会室

出席者 教 育 長 向 野 康 雄
教育長職務代理者 吉 川 明 彦
委 員 荒 川 和 子
委 員 橋 本 秀 樹
委 員 宮 崎 英 子

欠 席 者 な し

委員及び傍聴人を除くほか、議場に参加した者の氏名

生涯学習部長	小 澤 一 巳	次長兼教育総務課長	滝 嶋 正 司
学校統廃合担当課長	金 子 等	社会教育課長	大 寺 宏 之
中央公民館長	田 中 肇 夫	中央図書館長	奥 富 悟
スポーツ振興課長	栗 原 和 昭		
学校教育部長	井 堀 広 幸	参事兼教育指導課長	和 田 雅 士
教育センター所長	鈴 木 浩 明	学 務 課 長	奥 野 高 雄
入間川学校給食センター所長	小 澤 栄 一	書 記	中 山 昭 夫

傍 聴 者 数 0 名

報告事項

- ・平成28年第3回狭山市議会定例会について

報告者(生涯学習部長)
(学校教育部長)

(要旨)

会期は、9月2日(金)から9月30日(金)までの29日間であり、議案は専決処分1件、人事案件6件このうち教育委員会委員の任命に関する案件1件、条例一部改正4件、補正予算5件、市道認定1件、決算認定7件、剰余金処分2件合計26件である。なお、人事案件については、9月7日に先議され教育委員会委員の再任に関する案件については、全会一致で同意がなされている。人事案件以外は最終日に採決が行われる予定である。

一般質問については、17名で、うち教育委員会関係は9名であった。土方隆司議員から小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針、教育振興基

本計画について、金子広和議員からスポーツを核とした街づくりについて、千葉良秋議員から次期学習指導要領改定への対応、中学生学習支援事業について、矢馳一郎議員から地域防災力の向上について、高橋ブラクソン久美子議員から子育て支援、奨学金、制服について、加賀谷勉議員から夜間中学の設置促進について、綿貫伸子議員から自殺予防対策について、齋藤誠議員から地域コミュニティの再構築について、中村正義議員から観光文化をつくる、お茶文化をつくる、災害対策文化をつくるについてそれぞれ質問があり、それに対する答弁の内容について報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、高橋議員の中学の制服について、なかなか学校全体を通して共通というのは難しいと思う。今、人権の問題としてLGBTの問題が大きく取り上げられている。LGBTの方は、かなり多く、大変多くの方が悩んでいるということなので、そろそろ制服を男女共通というか選択性にし、スカートでもズボンでもいいというような体制づくりをはじめてみたらどうかと思う。また、お茶の教育については、狭山市にとってのお茶教育のコンセプトは、伝統文化の伝播と共に郷土を愛する心、アイデンティティーの形成だと思なので、今、学校に行ってもいろいろな方がお茶に触れる機会を作られているので、是非続けていただきたいと思う。さやま大茶会は、狭山を紹介する良い機会になっているが、それを支える方が少ないのが現状である。それぞれの先生方が高齢になり、それを継いで席を一つ設けるのが難しくなってきたところが多いので、今は個人の先生に頼っている状況であるが、教育委員会から下支えをするような形で、何か取り組みがあれば良いと思う旨の意見がなされた。

・平成28年度狭山市民文化祭の開催について

報告者(社会教育課長)

(要旨)

現在、建替え更新中の新狭山公民館を除いた公民館10館、富士見集会所、中央図書館及び市民会館を会場として10月下旬から開催される旨の報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、今年も公民館を巡るバスはないのかとの質疑に、今年度もバスの用意はない旨の答弁がなされた。バスの運行について、検討してもらいたい旨の要望がなされた。

・第27回さやま大茶会について

報告者(社会教育課長)

(要旨)

11月13日(日)に開催する。会場は県営狭山稻荷山公園で、茶席券1席500円で例年どおり開催する。茶席数については、久しぶりに多く15席となる。なお、今年度より、大茶会の実施にあたり、席主から参加費をいただいている。また、新たな取り組みとして、大茶会の横断幕を公園フェンスに掲示

して、事前PRを行うと共に更に大使館、駐日外国公館へ狭山へ来てお茶の文化を味わってもらいたい案内を行うことを予定している旨の報告がなされた。

・平成28年度博物館秋期企画展の開催について

報告者(社会教育課長)

(要旨)

開催期間は、10月8日(土)から10月23日(日)までの全15日間である。展示内容は、歌川国芳の作品40点、舞い舞いホールでは、武蔵野絵画展として浮世絵研究家である洋画家の恵俊彦氏の武蔵野を題材にした風景画を展示することとしている。また、関連事業では、浮世絵研究家である恵俊彦氏によるギャラリートークを開催することとしている旨の報告がなされた。

・狭山台公民館空調設備改修工事に伴う臨時休館等について

報告者(中央公民館長)

(要旨)

11月3日(木)の文化祭終了後の4日から休館とし、来年2月28日(火)までを予定している。事務所の一時移転場所は、狭山元気プラザ内にある狭山台地区センター別室1階会議室となる。臨時休館中の業務は、貸館業務は休止するが、講座等の事業は地区センター別室館内等を利用し実施する。なお、地区センター業務のうち各種証明書発行業務に関しては、休止するが、自治会その他地域の公共的団体との連絡調整に関する業務は実施していく旨の報告がなされた。

・狭山台プールの利用状況結果について

報告者(スポーツ振興課長)

(要旨)

今期は、7月16日(土)から8月31日(水)までの47日間開設した。利用者数は小学生以下3,695人、中高生368人、一般が1,564人で、合計5,627人であった。8月に入り台風や長雨により終日停止した期間が7日間あったものの前年度対比では小学生以下で355人、中高生で33人、一般で61人それぞれ増加し、合計で449人、8.7%の増加であった。また、狭山台プールの学校別利用状況では、聞き取りのできた3,039人のうち狭山台小学校が1,145人、新狭山小学校が789人、富士見小学校が230人となっている。これまでプールを開放していた入間川小学校、入間野小学校の児童は、それぞれ8名、60名であった旨の報告がなされた。

・平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

報告者(教育センター所長)

(要旨)

4月19日(火)に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施された。調査

事項は、教科に関する調査では、小学校は国語、算数、中学校は国語と数学、それぞれ基礎的なA問題と応用的なB問題がある。更に質問紙調査があり、学校に対する調査として指導方法に関する取組等に関する質問紙調査がある。調査結果については、小学校に関しては国語A、算数Aにおいては埼玉県を上回った。それ以外は全て埼玉県、全国平均を下回っている。平成25年度からの変遷を見ると小学校では基礎的なA問題に関しては全国との差が縮まってきている。B問題に関しては、若干開きがあるが改善されてきている。中学校では、A問題、B問題ともに正答率は県、全国平均より低くなっている。全国でも数学Bは、44.1%の正答率であり、問題の難易度が高すぎることも考えられる。全国、県よりも低い正答率であった事実を重く受けとめ現在教育センターでは、研究員や担当指導主事を中心に調査結果の詳細な分析を進め、更に市内小中学校の国語、数学、算数主任を集め、中学校区ごとに小中連携した対応策等を検討することになっている。本市の小学生の無解答率は、昨年度より大きく改善されている。中学3年生も国、県より高くなっているところがあるが小学校6年生当時、平成25年次に比べると減ってきていることから、最後まで諦めずに取り組む姿勢は若干育ってきていると思われるが、なお継続的な指導が必要であると思われる。小中学校の教科内容について、正答率、無解答率から読み取れる狭山の児童生徒の特徴や課題については、全体を総括していうと、国語については小学校、中学校共通の傾向として漢字については、読むことは平均的であるが書けない。記述式の設問について、正答率が低い。特にB問題の長文問題では、答え方が選択式であっても無解答率が高い。不慣れである。算数・数学については、小学校ではB問題において無回答率が高い。中学校ではA、Bとも無回答率が高い。問題に根気強く取り組む経験が不十分である。算数では、A問題では、計算問題でのミスが多い。見直しをすることが不十分である。B問題では、証明や説明をする等、理由などを書く部分の正答率が低く、無解答率が高い。数学では、基礎力不足からA、B両問題とも平均正答率が低く、無解答率が高い。質問紙調査では、学習面についてみると、本市の小学校の解答は、国や県より若干高くなっている。中学校では国、県よりも若干低くなっている。生活や自分のことについての調査結果と教科に関する調査の結果との相関関係から読み取ることができる主なことがらとしては、3点あり、1番目として、普段月曜日から金曜日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール、ネットをしている時間が長い児童生徒ほど平均正答率が低い。中学3年生で4時間以上している生徒が137人もいた。2番目として、小学校では基本的な生活習慣が確立している児童は、確立していない児童より正答率が高い。3番目として、小中学校で宿題をしている生徒と全くしていない生徒では大変大きな差が見られる。小学校では6名、中学校では61名全く宿題をしていないと答えている。こうしたことから、児童生徒の直接的な指導と共に保護者とも認識を共有し、情報モラルや基本的な生活習慣の確立を進めていく必要があると考えられる。現在各学校で、調査結果を分析し指導の改善に取り掛かっているところであるが、研修会等も開き、結果分析や課題の把握、解決

方法等について指導助言を行なっていく予定である旨の報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、これは改善の方向性が全般的に見られるという形でとらえてよいのかとの質疑に、中学3年生に関しても小学校6年生のときから比べると無回答率も下がっているので、若干努力はしていると考えられ、そういう意味では諦めず頑張っていると思う旨の答弁がなされた。こういった結果を踏まえて、今後、教育センターなり学校は、どういう対応をしていくのかとの質疑に、質問紙調査との関連もあるが、しっかりと基本的な生活習慣が取れている子が、クロス集計等でも非常に高い成績が出ている。もう1点特筆すべき点は、「学校に行くのが楽しい」と答えている子達は成績が良い。今年の中学3年生は、「学校に行くのが楽しいと思いますか」では、79%であり、小学校6年生のときは79.7%である。今年の小学校6年生は、87.2%であり、学校生活が充実することと家庭生活、基本的な生活習慣の改善等が今後の学力の改善には不可欠と思われる旨の答弁がなされた。一部の学校だけ成績が良いが、地域的に一生懸命やっているのかとの質疑に、小学校については、国語の委嘱研究を行って、その内容が子どもの学力にも影響しているのではないかという評価をしているが、実際にそうなのか教育委員会でも分析をしていきたいと思っている。中学校については、研究委嘱は行っていないが、指導者が分らない子については丁寧に教えていくということを徹底してやっているようであることから、指導者の影響によることも多いのかと思っている。一部の小中学校だけではいけないので、全小中学校にも優れた指導方法について研修会等を通して伝えるなどの試みをしたいと考えている旨の答弁がなされた。「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目で数値が高いのは大変良いことだと思う。クラスの中で人間関係のトラブルやいじめなどがあると自然に学力は下がっていく。学校でできることはそれぞれ教員がいろんな方法を使って、アクティブラーニングなども使いながらいろんな方法で行っていると思う。しかし、もう一方で、生活環境に関しては家庭ということで、大きなくくりになってしまっている。例えば学力の高い都道府県では、家庭環境が、子どもが帰ったときに、「宿題は」って言ってくれる人がいる。心が落ち着いて勉強に向かうことができる。しかし、今の都会の子ども達にはそれがなかなか難しい。昔は、かぎっ子という言葉はめずらしいこととして言われていたが、今はもう普通になっていて一人でもとにかくドアを開けて家に入るという状況なので、なかなか勉強にまでたどり着かない環境のところが多い。家庭の問題も様々あって、勉強どころではないという家庭もある。そういうところを細かく見ていくと、家庭の生活環境の問題だと片付けてしまうと問題の解決にならない。そこをきめ細かく見ていくと、狭山市のような住民の気質のまちでは、地域が問題になってくると思う。学校だけの問題ではない。地域をもって子ども達を見守る体制。これは、ずっと言われてきていることであるが、学校から帰ったときに誰かが声をかけてくれる。そんな温かい、見てくれているのだという元気が出るようなまちづくり、そういうところからも考えていかなければいけないと思う。学力といえば往々にして学校の問題であると考えが

ちであるが、そうではなくて家庭の問題。家庭は、地域が支えていく。地域も一体になって、子供たちが勉強できる環境がない。いろいろなところで声をかけて、子ども達に温かいまなざしをかけてもらうような意識を高めていくことが大事ではないかと思う旨の感想がなされた。スマートフォンの使用が長時間だったり、宿題の提出がなかったりする子が学力に影響しているということはどう家庭に発信していけるか、いろんな家庭があるのは分るが、発信しない限り、親に伝わらない限り、改善されないと思う。チャレンジスクールで子ども達に聞いてみたが、アンケート結果にもあげているが、来てよかったという子供たちが多くいた。当初の人数よりも少なかったかもしれないが、着実に学力が向上し良い影響になればと思っている。これらのことを、これから家庭へ発信していくと思うが、各学校から発信するのか教育委員会から発信していくのか、よい方法で発信してもらいたい旨の感想がなされた。小学生は地域の行事に参加している割合が多いが、中学生になると減ってしまう。部活等の問題もあるが、地域の方とのふれあい、絆を高めることにもう少し、学習支援教室もそうであるが、部活動にとられてしまうところとの兼ね合いを今後考えていけたら良いと思う旨の感想がなされた。

・中学校学習支援事業（さやまっ子・茶レンジスクール）集中講義について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

中学校学習支援事業（さやまっ子・茶レンジスクール）は、普段の土・日に加え夏期休業中と冬期休業中に集中講義をすることになっており、8中学校区で6日間実施された。台風等により延期等もあったが大きな混乱もなく無事に終了した。出席率に関しては、概ね8割近くの子供たちが参加した。子ども達のアンケート等を見ても肯定的な回答が非常に多かった。事業については、教える者だけではなく運営委員がいたことでスムーズに実施できたこと、講師がベテランであったこと、大学生のアルバイトは一人もいなかったこと、それぞれの講師に指導力があること、講義の内容も大切なポイントを説明するとき大変メリハリがあり、さらに初日にテストをしているので、その内容を図り子ども達に合わせた指導ができたことなどから、非常にうまい教え方であった。今回非常に好評であったが、冬期休業中は、12月26、27、28日の3日間行われる旨の報告がなされた。

教育委員からの質疑等では、この受講のための申し込みをしたのかとの質疑に、基本的にはチャレンジスクールに申し込んでいる子が受けるという形になっているが、いつでも入れることになっている旨の答弁がなされた。申し込みに対しての参加率は、学校によってばらつきもあるが参加しないのはもったいないと思う。生徒の感想では、勉強に対して意欲をもたせるようなものが多く、この子ども達の感想を冬休みに向けて効率良く発信してもらいたい旨の感想がなされた。コーディネーターがいるというのは大変良いと思った。講師が講義に集中できる。講師もそれぞれがその子たちに合った資料をきちんと作って

いる。学習の狙いを定め、それに関するものをきちっとまとめた資料をつくっている。大変よく取り組んでくれたと思う。子ども達は、ほとんどの学校でまじめにきちっと受けていた。もう少し人数が増えると良いと思う。無料であるが少しだけ有料にしても、そこに責任感が生じてくるのではないかと思う旨の感想がなされた。コーディネーターがいてよかったと思っている。無断で休む子には、その場で直ぐに連絡をして理由を聞いていた。そういう点では、子ども達も責任をもって教室に望めると思うし、持たせたのも良かったと思う。初めのテストで、レベルがわかって、弱いところを個人の指導で補っていたことも良かったと思う。また、宿題を出していたことが何よりも家庭学習の第一になり良かったと思っている。もう少し人数が増えると良いと思う旨の感想がなされた。

・平成28年度狭山市小・中学生英語サマーキャンプの結果について

報告者(教育センター所長)

(要旨)

8月3日(水)から8月5日(金)の2泊3日、入間市青少年活動センターで行った。参加者は、小学6年生18名、中学1年生4名の計22名であった。ALT全員の創意あふれる準備、指導と多くの教員や英語活動支援員の協力により楽しくかつ有意義な英語体験活動を行うことができ、3日目にはグループごとのプレゼンテーションが行われた。アンケートでは、何れも多くの項目でプラス評価となっており参加児童生徒にとって思い出深い充実した3日間となったことが読み取れる旨の報告がなされた。

・各種審議会等における会議結果概要について

報告者(入間川学校給食センター所長)

(要旨)

平成28年度第1回狭山市立学校給食センター運営委員会の開催結果について、その概要の報告がなされた。

・狭山市教育委員会後援名義の使用行事一覧について

報告者(スポーツ振興課長)

(社会教育課長)

(教育指導課長)

(要旨)

スポーツ振興課関係4件、社会教育課関係3件及び教育指導課関係2件の申請があり、審査の結果、使用許可を行った旨の報告がなされた。

議 案

議案第30号 平成28年度狭山市教育行政の取組と重点について

狭山市教育行政の一層の充実を図るため、平成28年度における教育行政の取組と重点を定めるため、提案がなされたものである。

議案第30号については、原案可決した。

議案第31号 平成29年度当初教職員人事異動の実施について

埼玉県教育委員会から、平成29年度当初教職員人事異動の方針が示されたことに伴い、狭山市教育委員会として県の方針に基づき人事異動を実施するため、提案がなされたものである。

議案第31号については、原案可決した。

その他

教育長職務代理者の指名について

教育長職務代理者に吉川明彦委員が、指名された。

以 上